

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Doory佐津間		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 14日		～ 令和7年 3月 5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 27日		～ 令和7年 2月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多機能型事業所として未就学児～高校生までの異なる年齢のお子様と同じ時間に同じ活動をする事で、幅広い年代のお子様同士でのコミュニケーションの機会がある。	同じ活動の中でも、個々によって難易度を変えたり、複数人で行う場合はあえて変えずに関わりを持てる機会を設けている。また、遊びに混ざれるよう職員が間に入って誘いかけを行っている。	より積極的にコミュニケーションを図っていきやすいような活動となるように、継続して集団活動の内容検討を行っている。
2	月に一度、「地域との関わり」・「保護者様同士の関わり」・「Doorlyの二事業所同士の関わり」・「日常の延長線上にある特別な体験が出来る」等を目的とした【特別プログラム】を実施している。	事業所内だけで完結せず、地域とのつながりのため公民館やコミュニティセンター等で開催したり、お客様の安心安全のため外部講師を招いた活動を行っている。	目玉となるようなプログラム内容の検討を行っている。満足せず、常にアップデートしていく。
3	生きていくうえで必要になってくる「お金」について、子どもの内から楽しく学べるように【マネープログラム】を取り入れている。	個別活動として、個別の課題を「おしごと」としてやっていたが、出来たものに対して【ドアリーマネー】という独自の通貨を給与としてお渡しし、貯まったお金でお買い物出来る仕組み作り。	「おしごと」に積極的に、かつ楽しんで取り組んでもらえるような【ドアリー商店】のラインナップの検討

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業安定のための職員増員。	人材確保において、現状確保が出来ていない。	随時募集をかけて職員が確保できるように努める。
2	職員の支援の質向上。	社内研修や検討会の頻度。	研修や検討会の回数を増やすとともに、外部研修への参加をしていく。
3	別室の事務スペースへお客様が入りやすい環境。	掲示物での促しや都度なげ入ってはいけないのかの声掛けはしているが、鍵がないため容易に入れてしまう。	鍵の取り付けや声掛けの徹底など、容易に入ってしまうような環境整備。